

区自治協議会提案事業 事業評価書

西区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	商店街等活性化研究・実践事業 【事業費予算 250千円】
事業目的・概要	「西区拠点商業活性化推進事業計画」における拠点商業地について、地域性を把握する区内の大学と連携して調査・研究、企画書作成を行い、商店街・商工会関係者などへ提案を行うことで、商店街等の活性化に寄与する。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	【対象地域】 内野地域拠点商業地 【連携した大学】 ・新潟大学 ・新潟国際情報大学 【手法等】 ・調査・企画書作成業務を各大学へ委託 ・企画を基に商店街・商工会等関係者へ提案 【提案内容】 ・新潟大学「Café四ツ角」 空き家を、内野地域の情報発信ツールとして、また、学生、地域住民の交流スペースとして活用し、魅力ある拠点とすることで、来訪者を増加させ、交流を促進する提案。 ・新潟国際情報大学「うちのDEこすぷれ」 コスプレイベントの定期開催を通し、若者の誘客、内野地域の飲食店などの利用に繋げ、賑わいを創出する提案。
事業の評価 (地域課題の抽出方法や 企画立案の評価 事業の公益性・実効性 ・効率性の評価など)	【地域課題の抽出とその解決策】 「西区拠点商業活性化推進事業計画」の個別事業には、マンパワーの不足等により、検討が進まず未実施の事業がある。そこで、商店街等の活性化を図るため、現地調査、関係機関との意見交換を踏まえながら、大学と連携し、未実施事業の推進も含めて、活性化の方策について、研究・実践することとした。 【良かった点】 ・大学、学生と連携することで、若者の柔軟な発想を得ることができた。 ・内野地域でまちづくりを行う人材の発掘・育成を目的とする西地区公民館の「うちの発掘ぷろじえくと」と連携することで、内野で活動する人材や組織と接点ができ、また多くの関係者に向けて企画提案を行うことができた。 ・自治協議会として、商店街等の活性化に焦点をあてることで、地域課題としての認識が深まり、検討のきっかけをつくることができた。 【改善点】 ・提案内容について、大学の研究チームだけではなく、地域とともに取り組んでいけるように、引き続き研究・実践を行っていく必要がある。 ・将来的には、地域が主体となって盛り上げていけるような実施方法を検討していく必要がある。
備考	